

# 平成28年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱり隊 ボランティア活動報告



青森県立保健大学 地域連携・国際センター  
ケア付きねぶた推進委員会

## 目 次

ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催	P 1
ボランティア活動 準備編	P 3
ボランティア活動 当日編	P 6
ボランティア活動後 編	P 10
学生の思い・学び	P 13
ケア付きねぶた推進委員会活動概要	P 33

## ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”第21回テーマ

『あなたの最初の一步が道になった。さあ、次のステージへ、次の舞台へ。  
Move on, move up to the next stage.』

報告書の刊行に寄せて

青森県立保健大学 学長 上泉和子

今年も8月3日にケア付きねぶたが運行されました。青森菱友会の、竹浪比呂央先生作「箭根森八幡」というねぶたの前で、そして体の芯まで響き渡るお囃子とともに、参加者さん、ボランティアともども元気に、そして無事に参加することができました。

ケア付きねぶたの準備は、新学期早々に始まります。5月になるとボランティアの募集があり、6月にはボランティア養成講座が開講され、7月に入ってねぶた囃子の音が聞こえてくるころには、いよいよ準備が本格的になり、オリエンテーションを迎えます。今年は、保健大学から学生72人、教職員35人、総勢105人が参加してくれました。最初から最後まで一周踊り続けた運行班、必要なものを何から何まで揃えてくれた備品班、着替え場所や食事場所のテントなど大仕事をやってのけた設営班、みんなの腹ペコを満たしてくれた食料班、浴衣も着たことがない私たちに、動いても着崩れない着付けをしてくれた着付け班、参加者さんのケアを一手に引き受けた頼りがいのあるケア班、緊急時になくってはならない医療班、そしてピストン輸送で遅くまで動いてくれた車両班、みんなの力が一つになったひと時でした。私は提灯をもって歩いていましたが、沿道から“ガクチョウー！”と声をかけていただいたり、うちわであおいでくださった方もいました。ケア付きねぶたを知ってくださる方たちが増えたんだととてもうれしく、感動でした。たくさんの方たちの協力や応援に感謝です。

さて、今年、私はケア付きねぶたのテーマを考えるようにおおせつかりました。けっこうしっかり考えた結果、“あなたの最初の一步が道になった。さあ、次のステージへ、次の舞台へ。Move on, move up to the next stage.”としました。いろいろな思いがあつて、今までにない長〜いタイトルになってしまいました。ことしは、ケア付きねぶた21年

目です。これまでの20年にわたるケアつきねぶたも、始まりは少しの人たちの最初の一步からだったことと思います。しかしその一步が道となり多くの人たちがその道をたどってきました。これからもこの道を通って、みんなが主役の舞台（ステージ）へ駆け上がり、そして、今年を一つの節目として次のステージへとつながっていくことを願って、このテーマを考えました。

参加者さんの方たちの興奮した、そして生き生きとした笑顔を拝見するたび、ケア付きねぶたの持つ力を心から感じます。この取り組みにかかわってくださっているすべての人に感謝したいと思います。そして私もこの取り組みに参加できることを幸せに思います。



本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動に積極的に取り組んで9年目となります。平成27年度から学長を顧問とし、教職員12名の委員で構成されるケア付きねぶた推進委員会が発足しました。チームで取り組んだ平成28年度のボランティア活動を報告いたします。

## ケア付き青森ねぶたの紹介

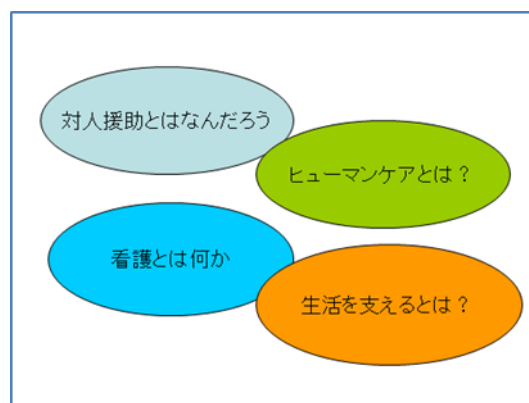
1年生が入学すると、4月に開講される4学科合同授業「健康科学概論」の中で、ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動について紹介します。これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、この活動を知ることがヒューマンケアを模索する上での原動力になると考えているからです。そして、ボランティア活動の実体験を通して、人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、ケア付き青森ねぶたの活動を紹介しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

**ヒューマンケアを提供できる人材育成**

ケアつきねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病気や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育んで欲しい、と願っています。

学長 リボウイツク・よし子  
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム  
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 より



## ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊 実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶたは平成8年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのまま参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教職員数十名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習的意義があります。

このため、本学では平成20年度から大学組織として協力しています。地域連携・国際センター事業としてボランティア養成講座を開催し、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

平成25年度からは、学部協力のもと、ボランティア活動日及び報告会についても、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅱとして単位認定しています。





## ボランティア活動 準備編

### 6月13日（月）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成28年6月13日（月）

9時30分～10時20分

場 所：B110教室

参加学生：85名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアとは」

講師：社会福祉学科 杉山克己 教授

② 体験発表

発表者：7名(運行班・食料班・設営班・備品班)

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。

ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的活動内容等について理解を深めました。



平成28年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	45	1	0	1	47
理学療法学科	6	0	0	0	6
社会福祉学科	5	5	0	0	6
栄養学科	18	1	3	0	22
計	74	7	3	1	85

### 7月16日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成28年7月16日（土）10時～10時40分

場 所：A111教室

テーマ：「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動」

講 師：平川若菜 氏、成田彩也香 氏（高齢者総合福祉施設清風荘）他

参加学生：104名

ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。



## 平成28年度 第2回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	52	4	1	1	58
理学療法学科	8	2	0	0	10
社会福祉学科	5	5	1	0	11
栄養学科	21	3	1	0	25
計	86	14	3	1	104

### ボランティア募集 5月21日(土)～

第1回ボランティア養成講座実施前にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけたり、ケア付きねぶた推進委員会からボランティア参加の案内をしました。7月8日(金)のボランティア募集締切り時には、学生約70名、教職員約30名の申し込みがありました。

### ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃から大学独自のボランティアのしおり作成に取り掛かりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や、昨年度の反省を生かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成となり、7月16日のオリエンテーションで学生ボランティアに配布しました。

### ボランティア オリエンテーション 7月16日(土)

7月16日(土)10時45分～12時に、A棟1階A111教室で学生ボランティアを対象としたオリエンテーションを行いました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配布し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け(暫定)の確認や、班ごとの役割の確認、各班の学生リーダーの選出、MSメールの使用について説明しました。

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会のスタッフの方々からは、車椅子の押し方、隊列運行や「ラッセラー」という掛け声の出し方についてご指導・助言をいただき、本番へ向け、活動のイメージをつけることができました。

## ボランティア直前説明会 8月2日(火)

昨年度に引き続き、教職員と学生ボランティアへのオリエンテーションを、日時を変えて別々に実施しました。学生には前期試験が終了した8月2日(火)10時30分～12時にA棟3階A305教室で行い、教職員には同日13時～13時30分にC棟2階N講義室1で行い、全体の流れ、バス乗車時間について、また、それぞれの役割および留意点について説明をしました。実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を学生と教職員に配布しました。

学生ボランティアのオリエンテーションでは、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトは車椅子の操作方法についての実演や、大学オリジナル振り付けや隊列、着付について教職員から説明を受けて練習をしました。初めてのハネト経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気良く、生き生きとした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。

## 医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として大西基喜特任教授(看護学科)と渡部一郎教授(理学療法学科)、看護師として角濱春美教授(看護学科)にご協力いただきました。



## 定例記者発表 7月27日(水)

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。

## 東奥日報掲載 8月4日夕刊

8月4日の東奥日報夕刊にケア付き青森ねぶたが取り上げられ、看護学科1年の飯田里菜さんのコメントが掲載されました。



## ボランティア 当日編（8月3日）

### 運行班

学生への直前説明会では、“先輩諸君！どうやって跳ねるか・オリジナル振付はどう踊るかを見せてね”とお願いすること10分。“はいそれでは、先輩たちに倣って跳ねまーす！ 踊りまーす！ ♪ラセラーラセラー…♪”と特訓は続いた。リズムも掛け声も多様な状況で、まあ学生たちは本番に強いから…と願いを込めた。次に担当する参加者の情報を真剣になって覚え、どうケアしていったらいいのかイメージを膨らませた。当日、お寝坊の学生を起し、運行班は一足先に大学を出発し、県民福祉プラザに到着。ホールで運行担当の方々からの諸連絡を受け、時間を惜しむかのように跳ねる・踊るの猛練習だ。座席の通路や壇上で恥ずかしさを吹っ飛ばすように大きい声を出した。初めてながらも伸び伸びした動きになった。結団式後、参加者と対面をし、挨拶から食事介助と進んでいく。食事会場の間を飛び交うように着付け開始の指示が舞う。真っ赤な腰紐を結んだ見た目はとびきりかっこいい跳人部隊が勢ぞろいした。業務によっては半纏を纏う学生もいる。腰に半幅帯を締め、鉢巻きは囃子風に斜めにつけている。ここまでの運行班の元気さと着付け姿には抜かりはないように見えた。参加者やその付添いの皆さんと写真撮影大会が始まり、青い森公園への移動時間を過ごす。出陣場所へ移動し、隊列を整え、車いす隊と跳人隊に分かれる。多くの観客の視線に何とも言えない緊張感に包まれた。運行中、跳人隊は誰も止まらず、声も止めず、元気いっぱい跳ね・踊り、車いす隊は安全第一で付き添い、道路の段差や車輪への衣装の巻きこみ防止など常に気遣う。いつの間にか出雲委員長が給水車を引っ張ってくれていた。委員はお盆に水を載せて走り回り、1人1人に声をかけて大丈夫かどうかを確認する。それぞれ学生がラセラーと声を出しながら、頑張り切る！という目で合図を返す。なんて頼もしい。車いす隊は終わってからの着替え・トイレ介助まで丁寧に行った。じょっぱり隊の運行班、一度は参加してみる価値はある。



## 備品班

今年は総勢9名の学生が備品班として活動しました。備品班は参加者それぞれのねぶたの衣装と着替え終わった荷物の受け渡し、必要物品の積み下ろしが主な仕事です。午前中には実際に声を出し、体を動かして受け渡し手順のリハーサルを繰り返しました。最近の学生は使う場面が少ない風呂敷の扱い方も、指導者さんのおかげで思いがけず正しい結び方も覚えられたようでした。また直接、参加者と関わる機会の少ない備品班ですが、今年はトラックへの荷物積み込みの合間に県民福祉プラザを出発する参加者さんへ激励コールを送ることもできました。一人ひとりが何をすべきか考えながら、笑顔を絶やさずがんばりました。



## 食料班

食料班には2名の2年生、8名の1年生、3名の教員が参加しました。主な仕事として、午前中はカレー作り、昼食時間はカレーの提供を行い、午後からは唐揚げ、そうめん、おにぎり作り、青い森公園でのおにぎり配布や、運行から帰ってきた方々への打上げ料理の盛り付けを行いました。参加者さんと交流する機会の少ない裏方業務でしたが、学生の皆さんは終日の立ち仕事でヘトヘトになりながらも、清風荘で嚙下食を作っていた卒業生の先輩とともに、イキイキと裏方仕事を頑張っていました。



## 設営班

設営班の仕事は、昨年度と同様にイベントが楽しくスムーズに進むよう、①福祉プラザにおける昼食後の衣装着替え会場の設営及び撤去、②青い森公園における大型テントの設営及び撤去、が主な仕事でした。今年度は青い森公園の状況が変わったため、設営班全体に多少の戸惑いはありましたが、班の皆さんは助け合いながら仕事をこなし、疲れた表情も見せず作業を行っておりました。また、班のボランティア学生は設営班の仕事が空いたときには、何も言わなくても他班の仕事を手伝う等、非常に能動的な活動姿勢が見られ、感心させられました。裏方の仕事ではありますが、皆が笑顔で、参加者のために頑張った姿が印象に残っています。





## 医療班

大学からは、医師の資格を持つ教員2名と、看護師の資格を持つ教員1名が参加しました。診察の付き添いや食事、着替えや体位の調整を行いました。1年ぶりにお会いする参加者の方々が、今年もお元気で、食べられるようになったり、言葉が出るようになったりしている様子を目の当たりにし、勇気づけられました。

運行では参加者全体の体調管理を行いました。学生ボランティアが積極的に参加者とコミュニケーションを取り、必要な時に医療班に相談してくれたので、事故なく楽しいねぶた参加になったのではないかと感じました。

## サークル発表

昨年度に引き続き、吹奏楽サークルと書道サークルが出陣前の発表を引き受けてくれました。参加者やボランティアの皆さんがねぶた衣装に着替え、続々と青い森公園に到着した後、吹奏楽サークルの華やかな演奏や書道サークルの力強い筆さばきが出陣前の雰囲気盛り上げ、参加者を勇気づけてくれました。



## ボランティア参加者数の推移（人）

	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96
平成 25 年度	67	32	99
平成 26 年度	66	34	100
平成 27 年度	83	29	112
平成 28 年度	72	35	107

## ボランティア活動内容

種類	主な役割
<b>運行班</b> 通称: 熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
<b>医療班</b> 通称: 命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。
<b>ケア班(班担当班)</b> 通称: 仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
<b>食料班</b> 通称: ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
<b>備品班</b> 通称: なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
<b>設営班</b> 通称: 重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
<b>着付け班</b> 通称: 上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。



## ボランティア活動後 編

### 活動を振り返る会 8月4日(木)

ケア付き青森ねぶたでのボランティア体験を自分だけのもので納得させてしまうのではなく、そこで生じた疑問やうまくできたこと、できなかったこと、何のためにやっていたのかわからなかったこと、感動したことなど、体験したすべてに対して参加した学生みんなで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。

今年度も、ねぶた運行ボランティア翌日の開催となりました。前日の疲労が残る中、21名の参加がありました。グループ内に運行班、備品班、食料班、設営班のメンバーが偏らないように配置し、3グループ編成としました。グループワークの視点は、①各班の活動内容を踏まえたポジティブな面とネガティブな面の抽出、②活動を通して感じたボランティア参加のメリット・デメリット、③ボランティア活動を通して挙げた問題点に対するその場での対処策と今後に向けた対応策、としました。80分程度のグループワークの後、作成した資料をもとに各グループの発表と意見交換を行いました。

発表では、細かな気配りから大きな流れに関わることまで様々な改善提案も多く出されました。

また、他のボランティア活動では、経験であることが少ない事柄や感想も出されたのが特徴的です。例えば、「企業組織のようなスケールの大きなボランティア活動を肌で感じる事ができた」「裏方の仕事はボランティア全体を支えていることを知ることができた」「本番前想像していた以上に、本番になると動きや業務が多く疲労困憊だった」などです。ボランティアに初参加し、且つ周りに目配りして能動的に活動することは大変難しいことです。与えられた責務を確実にこなして、動きたくても動かないことが円滑なボランティア活動に繋がることも理解して欲しいと思いました。また、学生それぞれが独自の視点で改善策を提案することができました。同時に、じょっぱり隊への参加の意味を考えることができました。

最後に、じょっぱり隊の参加人数に比べ「振り返る会」の参加者が少ないのは残念なことです。しかし、その分、少人数であるがゆえ、前日の高揚した祭りを静かに振り返る時間を一人ひとりが持てたと思います。祭りが盛り上がるほど、祭りのあとの静けさの中には孤独感を感じます。この孤独感も振り返る会では共有することができたのではないかと思います。青年期の孤独感とその共有は、成長へのさらなるステップとなるでしょう。単なる反省会ではなく、参加者が自分自身の個別の経験を振り返ることができました。そして、友人や教員と共有することでボランティア経験が深まります。振り返る会に参加した学生は、自身の経験をしっかり消化・吸収でき一回り大きく成長できたようです。





ボランティア募集 7月8日(金)締切



ケア付き青森ねぶた  
じよつぱり隊  
八月三日(水)出陣



【ボランティア活動までの流れ(予定)】

- 6月13日(月) 9:30~10:20 第1回ボランティア養成講座
- 7月16日(土) 10:00~11:00 第2回ボランティア養成講座(※)
- 11:00~12:00 オリエンテーション(※)
- 8月 2日(火) 10:30~12:00 直前説明会(※)
- 8月 3日(水) 終日 ボランティア活動(8:00大学出発、22:30大学帰着)
- 8月 4日(木) 14:00~17:00 ボランティア活動報告会

8月3日ボランティア活動に参加する学生は、(※)は極力参加してください。  
(※)の参加が難しい場合は、あらかじめ下記の教職員に相談してください。

看護学科：木村(恵)、戸沼 理学療法学科：長門、マイケル・スミス  
 社会福祉学科：児玉、岡田 栄養学科：栗鞍、小笠原メリッサ 地域連携推進課：佐藤  
 ◆申込方法◆ 申込用紙を地域連携推進課まで提出してください。(5月23日受付開始)  
 申込用紙は地域連携推進課・教務学生課の窓口で配布しています。  
 ◆お問合せ◆ ケア付きねぶた推進委員会





報道関係者各位

平成 28 年 7 月 27 日  
青森県立保健大学

## 第 21 回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8 月 3 日（水）出陣

### I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で 21 周年を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。また、今年度のテーマ本学の上泉和子学長が考案しました。

第 21 回テーマ『あなたの最初の一步が道になった。』

さあ、次のステージへ、次の舞台へ。

Move on, move up to the next stage.』

出陣：8月3日（水）

主催：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会

共催：青森県立保健大学

### II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全 2 回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義 I の単位認定講座とし、大学をあげてボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのため、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第 1 回 6 月 13 日（月）、第 2 回 7 月 16 日（土）

### III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 66 名、教職員 34 人、合計 100 名（7/13 時点）が参加します。学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員 12 名で構成する委員会を昨年度から設置し、強かにサポートしています。

### IV. サークル発表

出陣前の待機時間（16:00～17:00 頃）、青い森公園で、サークルのパフォーマンスを予定しています。

### V. プライマリーケア

平成 24 年度から引き続き、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（運行班 30 名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ります。

チームは、参加者の到着（10:00）から解散（21:00）まで共に行動します。参加者は様々な疾患があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の疾患に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館町 58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当：ケア付きねぶた推進委員会委員長 出雲 祐二

事務局地域連携推進課 佐藤 知恵子

\*\*\*\*\*

# 学生の思い・学び

## ボランティア申込み時の学生の思い(抜粋)

- ・ 去年も参加して得るものが多かったため、今年も参加したいと思った。
- ・ 自分の視野を広げたい！医療従事者になるために、多くの人と関わり、経験を増やしたい！新しいことに挑戦したい！前までの自分なら、参加する勇気があっても行動に移せなかったが、これからは、自分から動ける人になりたいと思い、自分を変えたいと思い参加しようと思いました！ケア付き青森ねぶた楽しみたいです！
- ・ 今年、青森県に来て初めてのねぶた祭りで、ただ見るだけでなく、ボランティアとして、祭りの壮大さ、迫力、熱を肌で感じたいと思いました。また、じょっぱり隊を通して、青森のことをより深く知り、多くの人と関わり、楽しみ、密度の濃い夏休みにするための第一歩となれば嬉しいです。
- ・ 昨年のねぶたをみて出たいと思いました。初めて参加するので、ぜひ運行班で参加したいです。よろしくお願いします。
- ・ 年に一度だけのケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に少しでも貢献できるように設営班の役にもたてるように一生懸命がんばりたい。
- ・ 青森に来て初のねぶた祭りなので、一般の参加者の方を近くでサポートしながら参加者全員が楽しめるねぶた祭りの運営に貢献したい。希望通りに運行班になることができれば、ねぶた独自の衣装もとても楽しみである。ボランティア養成講座にも積極的に参加して、ボランティアに対する理解も深めたいと考えている。
- ・ 初めての活動で緊張していますが、自分のできる精一杯の努力をして、少しでも貢献できればと思っています。臨機応変にパキパキと行動していきたいです。
- ・ 参加者の方々と触れ合いたいということと、参加者の方々と同じ環境(ねぶた祭)を楽しみたいと思っています。
- ・ ボランティア経験が少ないので、初めてのことが多く、不安とわくわく感でいっぱいです。精いっぱい頑張りたいと思います。
- ・ 2年目です。よろしくお願いします。うらかたでがんばりたいと思います。
- ・ 祭りなどの行事が好きなので、このボランティアを通して参加者と楽しみながら、普段経験出来ないことをしたい。自分と一緒に笑って楽しかったと思ってもらえるように、自分の明るさを生かして、自分にしか出来ないことをやりたい。
- ・ 入学する前から興味を持っていて、参加したいと思っていました。自分でやるべき事を見つけて、少しでも役に立ちたいです。ねぶた祭りに行ったことはないのですが、参加する方々と一緒に楽しめたらと思います。
- ・ 私は今までボランティアというものをしたことがないので、今回のケア付きねぶたに参加したいと思いました。保健大学に入学する前から、ケア付きねぶたについて先輩から聞いていて、興味があったので、ぜひ参加したいです!!!
- ・ 入学前から参加したいと考えていました。人の為に自分のできることをして、思い出に残るような祭



りにしたいです。

- 初めてボランティアとして参加するので、参加した人全員が楽しめるように自分の役割を果たしたいと思う。
- 大学に入ってから、是非やってみたいと思っていました。そしてこのケア付きねぶたは、この大学に入学する動機にもなりました。できれば、運行班になって、障害者の方々と接し、自分の将来に役立てていきたいと思っていますが、どんな形であれ、障害者の方々が楽しめるように、そしてまた来たいと思って頂けるように、全力で取り組みたいと思っています。
- 昨年青森市に転居して参りまして初めてねぶた祭りに参加いたしました。この熱く感動的なお祭りにボランティアとして関わらせて頂くことで、たくさんの方と新たな感動や貴重な時間を共にできたらと思っています。それなりに年齢を重ねておりますが、特別な技術は持ち合わせておりませんので、担当の希望は“何でもよい”といたしました。
- 以前からボランティア活動について参加してみたいという気持ちがあったけれど、なかなか行動に移すことはできませんでした。でも、今回、ねぶた祭りという青森県の代表的なお祭りにボランティアで参加できるチャンスがあると知り、この経験を通して何か得られることがあるかもしれないと思い、参加を決めました。一つでも学んでこれるように頑張りたいです。
- 入学する前から大学のパンフレットなど見て、興味があり、ぜひ参加したいと思いました。参加者の皆さんと一緒に盛り上がり、楽しい思い出ができたと思います。
- ボランティア活動を通して主体的に行動することを学びたいです。また、病気や障がいのある方との関わり方を学び、自分自身成長できたらと思います。
- ケア付きねぶたで体験することは私にとって力になります。一生懸命1つの気持ちでがんばりたいと思います。
- おいしい食事を提供して、参加者の皆さんが少しでも良い思い出を残せるように頑張っていきたいです!!
- 入学前からケア付きねぶたに参加したいと考えていました。念願の活動ということで、栄養学科として学んだことを活かし、また、伸ばすということをもっと、自分の経験値をあげていきたいです。周りのことをみる、気をつかうことを重視したいです。
- 青森の文化に触れつつ、ボランティア体験ができることはとても貴重なものだと思います。今の私が持っている力をじょっぱり隊に参加される方々に貢献できるよう、がんばっていきたいです。
- 前回は食料班として参加し、大変だったがとても楽しかった。またみんなで楽しいじょっぱり隊を作り上げたいと思った。
- 前回は参加させていただき、とてもよい経験をしたと考えました。まだ不十分だったため、今回も参加したいと考えています。
- 入学したらぜひじょっぱり隊に参加したいと考えていました。実際入学し、ねぶた祭らしさを一番感じられるハネトとして参加し、今まで学んできたヒューマンケアを実践したいと考え今回じょっぱり隊に参加したいと思います。
- 高校生の時から保健大のLIVE!などを見て自分も参加してみたいと思っていました。ハネトにも興味がありますが、栄養学科として皆さんが力いっぱい踊れるような食事を提供できたらいいなと思っています。

## 第1回ボランティア養成講座参加後の感想(抜粋)

- 人に何かをしようとした時、どうしたら良いのかわからない時は多くあります。でもちゃんと自分の中で考えて、自分の言動に責任を持って思ったことをやってみるようにしたいと思いました。必ずしも自分の行動が感謝されるわけでもないし、怒られてしまう事はあると思うけれど、何もしないでモヤモヤしたりするより、動いてみようと思いました。先輩方のお話を聞いて、何をやったらいいのか動けなかったとおっしゃっている先輩がいらっやして、でも楽しかったという言葉に背中を押されました。ケア付きねぶたでは、指示されたことをしっかりやる事はもちろん、疑問に思った事は聞いて確認したりしたいと思いました。
- ボランティアをするにあたって、幅広い理解が必要であると思いました。ただ単にボランティアをするのではなく、社会性・公共性が伴うものでなくてはいけないことがわかりました。また、常に感謝されるボランティアではなく、常に善であるわけでは無いことがわかりました。「動かぬ善より、動く偽善の方が、助けを必要としている人にとっては利になる」と言う言葉はぐっときました。ボランティアすること自体が主体的であり利他性のあるものであると考え、これからボランティアをしていきたいと考えました。
- 今回の講座で改めてボランティアについて大切なことを知ることができた。ボランティアは「自発性」であること。やるからには自ら進んでものごとを探し行動しなければいけない。まだ1年生で知識をたくさんもっているわけではないけれど医療従事者の専門性をいかしてできるのでこれからもつながると思った。チームワークが必要だし、連携してやることが大切だと思った。先輩方の体験談も聞くことができさらに興味を持つことができた。ボランティアでは、支援していくうえで自分の中の気持ちが大切だと感じた。
- ボランティアというのは、とても深いと感じた。ボランティアをする上で必要な力はたくさんあるのだと思った。特に、自主性というのはすごく大切である。自分から動かないとなにも始まらない。私は、自主性がないと思う。自主性は自分の気持ち次第なのでこれから自らががんばっていききたい。今日、杉山先生が、動かぬ「善」より動く「偽善」のほうが、助けを必要としている人にとっては「利」になる！とおっしゃっていて偽善への考えが変わった。でも、偽善者と思われたい行動をとることが必要ではある。この講座をうけ、ボランティアに参加してみたくなった。
- ボランティアとは善の心が大切だと思っていた自分の考え方が変わりました。ボランティアには4つの性格があって、1つ目が自発性、2つ目が無償性、3つ目が利他性、4つ目が先駆性ということでした。この中でもボランティアの核となるのは、やはり自発性でした。ボランティアとは例えば震災の被害があった場所に行き活動するのもそうですが、その場での募金であっても十分なボランティアだと思っています。ボランティアをする以上は「身勝手」なボランティアになることを避けながらも、ただボランティアしている人を批判し見ているのではなく、まず動いてみる、動く偽善もありだと思いました。しかし、私は動く善が1番いいのではないか、それを目指すべきだと思いました。
- 講座を通して、ボランティアの基礎的なことを改めて学ぶことができました。自分自身、ボランティアには「善」が含まれていると思っていたが、ボランティアには「利他性」が含まれていることを知ることができました。ボランティアはすること自体が主体的となり、今後は積極的に参加したいと思いました。ケア付きねぶたに参加する際、自分自身の人に対する感謝の受け入れ方を身につけることができればと思います。今後、社会に出る時にも十分役に立つことだと思うので、積極的にかつ楽しくできた



自分は偽善者ではないかと思ったことが怖いと思いました。熊本震災の際にボランティアに来た人が多すぎたり、送られてきた物資がむしろ邪魔になったりしているニュースを見て、このような事態になるのなら、むしろ行動しない方が良いのではないかとも思ってしまいました。しかし、今回杉山先生の話聞き、動かぬ「善」より動く「偽善」という言葉に、私も偽善者になってしまってもまず、行動してみることが大切だと思いました。

- 今までは、ボランティアとは自主的に行うものという考え方、イメージでしかなかったけれど、ボランティアには4つの性格があるということ、これからボランティアを行ううえで確認できてよかったと思う。また、ボランティアをするのは、自主的な活動ではあるけれど、引き受ける以上は社会性、公共性が伴うので、自分の勝手な考えや身勝手な行動は本当に迷惑だし、それではむしろやらない方がいいのではないかと思った。ボランティアの特性などをしっかり理解した上で、参加したいと感じた。ケア付きねぶたに参加することで、思い出になることはもちろんだけど、これからの学習に生かせたりもすると思う。気が付いて動けるようになっていきたいとも思った。
- 今回の講座を聞いて、「ボランティアの特徴には”善”はありません」ということを知った。これまで私は、ボランティアといっても、実際に対人援助を行うし、保健大の学生であるという肩書があるため、社会性・公共性が伴い、責任がある。このことから、失敗したらどうしようなどの不安感が大きく、あまり積極的に参加してこなかった。しかし、自主的に行うとすると、もちろん失敗することがある。自分がやりたいと思ったことには積極的に参加し、自主性を大切にしたいと思った。
- この講座を受講するまでボランティアは「善」ばかりだと思っていました。しかし、自主性・先駆性はボランティアに必要不可欠だと改めて感じることができました。偽善者という考えより、自分は動く「偽善」であることとして主体的に行動し、万が一それで失敗してもその失敗が自分の経験にもつながるため、失敗を恐れずに主体的を強調することが必要だと思いました。ボランティア「する」こと自体が「主体的」というのは、その通りだと思いました。
- ボランティアについて深く学ぶことができた。ボランティアは「善」だとずっと思ってきたが、自分の思っていた、やってきたのは「偽善」で、さらに自発的ではなかったように思えた。この講座を受けて高校でやってきたものとは違うボランティアを大学でやっていきたいと思った。とにかく、次何が起こるのか、予想したり、場の状況を判断して、自ら進んで動けるようになりたい。専門性はまだ足りないところがあるが、対人職として、ボランティアを理解し、取り組んでいきたいと思った。指示通りに動くだけではなく、自分から関心を持って取り組むことが大切だとわかったので、これからの生活や自習にも、生かしていきたいと思う。
- 初めに、ボランティアの語源がラテン語で、自由・正義・勇気という意味だということを知らなかった。知ることができてよかった。ボランティアの性格の4つのうちの3つは理解しているが、4つ目の先駆（先見・創造・開拓）性が含まれていることに驚いた。ボランティアにも、創り出す力があるということが分かって良かったし、自主的に考えて行動することも4つ目に含まれているのかと思った。ボランティアは”偽善”と言われていたのを自分も聞いたことがあったし、確かにはたから見れば“良く思われたい”との思いにしか見えてないのかもしれないけど、対人の相手の取り方が大事だから、周りの方の見られ方というよりは、その相手への思いやりと態度を大事にしたいと思った。
- ボランティアは偽善だという人に対して、動かぬ「善」より動く「偽善」のほうが、助けを必要としている人にとっては「利」になるということが印象深かった。確かに、自分が普段からお年寄りに席をゆずったり、良いことばかりしているわけではないので、たまにボランティアをするからといってどう



だろうと思うことはある。しかし、自分から何かをしようと動くことが誰かにとって役に立つことになり得るのなら、やらないよりはやった方がいいのだと思った。また、自分がいいと思ってやったことが必ずしも他の人にとってもいいことやありがたいことではないということも忘れてはならないと思った。

- 私は今までボランティア活動をしてきたことがなかった。だから大学生になったら積極的にボランティア活動に参加しようと思い、ネットでさがしたり、学校の掲示板を見たりしていた。けど、1人で申し込む勇気がなくて、今までまだ1度も応募はしてこなかった。先生のお話しの中に、ボランティアは自由・正義・勇気だという話もあり、ボランティアをできる人間にまだ自分はなれてないと感じた。今回のじょっぱり隊は学校の人が多く参加することもあり、自分から申し込んで、これから次のボランティアも自ら参加していけるような人になりたいと今回思えた。



## 第2回ボランティア養成講座参加後の感想(抜粋)

- じょっぱり隊が20年もの歴史があるとは知りませんでした。20年もの間、多くの人びとの笑顔を作ってきたとはすごいと思い、今回じょっぱり隊の一員として自分の力を発揮して頑張りたいと思いました。じょっぱり隊に参加している人全員が気持ちよく、楽しく活動できるよう、自分も楽しんで参加したいと思いました。じょっぱり隊の活動を通して、みんなで協力して1つの目標に向けて努力をする楽しさ、難しさを学べたら良いなと思いました。
- ボランティアには、多くの協力があってこそ成り立つ部分がある。何か新しいものをするのにははじめの一步がとても大切。その一步を踏み出せるかしないかが良いボランティアかどうかに関わる。何でも質問するが、何でもかんでも質問するのはダメというのはバイトや今後の生活に関わると思った。
- ボランティアを行うということは、ただ働けばよいというだけでなく、さまざまな視点で、周りを見て判断し行動しなければいけないということが分かりました。一人ひとりが責任ある行動を心がけなければいけないと思いました。人と人との関わりを大切にしながら、今回のじょっぱり隊が成功するよう頑張りたいと思います。
- 参加者の皆さんはもちろんのこと、自分たちボランティアも含め全員が一生涯の思い出に残るような1日にしたい。私が主役、みんなが主役。1日中動いて疲れるとは思いますが、それを上回るくらい楽しかったと思えるように第一印象を大切に、笑顔で臨みたいと思った。真剣に取り組むが、真剣になりすぎて怖い顔をしてしまわないようにじょっぱり隊全員で声を掛け合い、残念シーンを減らしたいと思った。初めての参加で不安はあるが、良い一日をつくりたい。
- ボランティアをする際、やったことがないからといってやらないのではなく、やったことがないからこそ教えてもらいやらないといけないとわかった。自分の自己管理をしっかりして気持ちも引き締めて頑張りたいと思いました。私は集中しすぎるととても真顔になりこわいと言われるので笑顔を忘れずに頑張りたいと思いました。
- このケア付青森ねぶたじょっぱり隊を運行するのに、ほんとうにたくさんの人びと、色々な職業、年齢の方々が協力しているのだなと驚きました。ただ頼まれた仕事・作業をするのではなく、自分からできること必要なことをみつけ、進んでやるのが大切だと改めて思いました。作業中でもニコニコというのは難しいなと思いました。真剣に、でも真顔にならないように少し心に余裕を持って活動できるようにしたいなと思います。
- この講座を聞いて、じょっぱり隊に対する熱意が伝わってきました。私も今回、じょっぱり隊に参加させてもらうので「ホウレンソウ」をしっかり意識し、周りのボランティアの方々とも協力し合って、参加者の皆さまが「また来年も来たい」と思ってもらえるように頑張りたいと思いました。でも私は、集中して無言になったり、真顔になることがあるので、そこは気をつけて活動したいと思いました。
- 本講座を受講して、ボランティア同士の声の掛け合いがとても大切だということが分かりました。「やったことがない」だけで終わるのではなく、さらにもう一度前向きな言葉を言うことで、相手が不快にならないだけでなく、自分自身も前向きになったり明るい気持ちになったりするのではないかと感じました。はじめてじょっぱり隊に参加するので、混乱することもあると思いますが、報告連絡相談を行なって、参加者に良い思い出にさせていただくためにも頑張りたいと思いました。
- じょっぱり隊は全国に広がる「寝たきりになら連」のひとつであることをはじめて知った。このようにじょっぱり隊が20周年を迎えているのは、これまでの人たちがボランティアをたくさん笑顔にし、

必要とされているからだと思う。私がじょっぱり隊に参加するときにもじょっぱり隊に参加している人たちが笑顔になり、また楽しめるように言葉遣いなど気をつけて頑張りたい。

- じょっぱり隊は、体が不自由な人にもねぶた祭りを楽しんでもらうための大切なものだった。自分がねぶた祭りを楽しむだけでなく、参加者が楽しめるようにさまざまな方面からの支援が必要で、ボランティア一人ひとりが役割を果たさなければいけないと思う。そのために元気とおもてなしの心が大切だと分かった。初対面の人に、明るく元気に対応すれば参加者の皆さんにも楽しんでもらえると思う。おもてなしの心は来てもらった感謝の気持ちを持って参加者の方に自分たちのせいで迷惑をかけてしまっていると思わせないようにおもてなしの心を持って接するべきだとも思った。
- ケア付ねぶたは高齢者や障害者が楽しむことができるように、医療や福祉、介護の専門職が協力して成り立つものである。ここで大切となるのが、平等に楽しむことができるような取り組みがなされているということだ。さまざまな班があり、食事などの日常的なことに対して細かく支援できるようになっている。なので、私は高齢者や障害者の人が十分な支援の下、達成感を味わうことができるため、多くの人が参加してほしいと思った。さまざまな人が参加するため、信頼感を保つことができるように仕事に責任を持って臨むこともできればよいものになると考えた。また周りを見た、考えた行動をすることも大切である。
- じょっぱり隊のボランティアには、運行班、設営班、備品班、着付け班、食料班、ケア班、車両班、鈴班、記録班と多くの役割があり、たくあんの人たちが関わっていることが分かりました。やりがいを感じられるボランティアだと思うので、来年やってみようと思いました。
- じょっぱり隊はボランティアで一人ひとりに役割があるが、参加者もじょっぱり隊も「ねぶた」という祭りに参加していることは同じなので、楽しむことを忘れてはいけないということが分かった。やるべきことはきちんと行い、自分自身も楽しみ、参加者さんとともに信頼関係を深め楽しむことが、このボランティアの一番の楽しみなのではないかと思った。
- 以前から、じょっぱり隊の活動については知っていたのですが、この講座へ出席してみて、より具体的に詳しく学ぶことができました。そしてボランティアの心得として重要なこと、それが社会へ出た際も大切になるということ学びました。今回の講座へ出席してよかったと思っています。
- じょっぱり隊は東北三大祭の一つだけあって、さまざまな方が関係しており、たくさんの人たちによって作られているのだと感じました。また、じょっぱり隊のような活動が全国で行なわれていると知り、後世に引き継いでいくためにも何らかの形で参加したいと考える人が多くいるのだと思いました。ボランティアで心がけること、注意することなどは、ボランティアだけでなく勉強やその他のあらゆることにもつうじていると思います。そのため、今後の生活でも意識して実践していけるようにしたいと思います。
- ひとつのことを報告するにしても、その態度によって受け取られ方がまったく代わってくると思う。その対応、表情ひとつが相手との関係やその場の雰囲気を変えらると思うので、気をつけていきたい。周りの人に不快な思いをさせないよう対応をし、良い関係を築いていきたい。
- ボランティアをするに当たって、大切なことは参加者の方とのコミュニケーションなのだった。ボランティア活動というのは、ただ与えられた仕事をこなせばいいというわけではなく、参加者がいつでも最後まで笑顔で過ごせるように作業中の気配りも大切だと思った。今後、ボランティアに参加するときの参考にしたい。
- ボランティアの心得として、声を明るく、おもてなしの心をこめて、ということは何にでも共通する

などと思って、知れてよかったと思う。ほんとうに熱い思いをもって活動していらっしゃるんだなど伝わってきて、今年は参加できないが、来年は是非参加したいと思っている。

- ケア付ねぶたじょっぱり隊の目的を理解することができた。ボランティアの心得として、参加者が不安や心配を持たないためにも常に笑顔でいること、自分から積極的に話しかけること、進んで物事に取り組むこと、消極的にならないことの大切さについて学んだ。ボランティアに対する心構えが変わった。
- 「じょっぱり隊」は、平成 8 年から始まり、歴史のある活動だと思った。だからこそ、参加者さんとかかわり方や「じょっぱり隊」に参加するにあたっての心構えや意識を高く持ち、参加したいと思う。また、今回のテーマである「あなたの最初の一步が道になった。さあ、次のステージへ」のもと、参加者さんがねぶたに参加して元気をもらい、これからにつなげていけるようなサポート（笑顔を絶やさず）をしていきたい。さらにボランティアという意識だけでなく、「私が主役、みんなが主役」として積極的に行動していきたい。
- このボランティアは参加者さんの安全を一番に守らなければならないものだと少し(過剰なくらい)緊張していた。だが、この講座を受けてみてボランティアをするほうも楽しむことが重要だと知った。だからこそ、本番は何が起こるかかわからないが、笑顔でいることは忘れずに活動していきたい。
- じょっぱり隊に参加される方には、さまざまな思い、そして家族の思いがあることを知り、その思いにこたえ、それ以上の思い出となるよう一生懸命取り組みたい。参加者の方に元気を届けられるよう細やかな気づき、豊かな交流をもってして感謝して参加したい。ボランティアには、対象の方への感謝の気持ちを持ち、あかるく、気持ちを共有しあうことが重要である。
- 去年も受講して、じょっぱり隊に参加しましたが、改めてボランティアとは何かを知ることができたと思います。毎年参加したいです。
- ケア付ねぶたじょっぱり隊参加者は、この 21 年間で 5000 人を超える人数に達していて、じょっぱり隊の認知度が高いことが実感できた。県外からじょっぱり隊のねぶたを楽しみに訪れてくれる方が多い。そのような方の期待を裏切らないような行動や、非日常的な活動であるゆえ、気の引き締めを忘れてはいけない。さらにじょっぱりだけでなく、ボランティア全体でもチャレンジワードへ変換することが大切だと学んだ。過度に作業に集中せず、常に周囲の様子に気を配るべきだと学び、作業も一人では抱え込まず、ボランティア同士の声かけが必要不可欠だと感じた。ハウレンソウは常に頭に入れ行動したい。
- 昨年もじょっぱり隊の活動に参加しました。前は全員が楽しんで活動できていたと思う。参加者もボランティアも楽しみながら、今年もじょっぱり隊の活動を成功させることができるように頑張りたい。多くの人に関わっている活動ということを改め実感し、気持ちを引き締めることができた。
- 20 年というじょっぱり隊のこれまでの活動、歴史に敬意を払い、これからも続いていく活動の一部を担当することへの責任感を実感しています。活動が安全に行なわれ、笑顔のゴールを迎えるためにはボランティア同士のケアが欠かせないと思います。周囲をよくみて活動することを忘れないようにします。
- じょっぱり隊は 21 年間も続けられているのは、ボランティア・参加者が 5000 人も声、たくさんの人の参加があるからだと思った。このときを楽しみにしている人がたくさんいると思う。初対面の印象は、後に変えることは難しいので最初の挨拶が大切だと思う。
- 1996 年からさまざまな歴史を通して、毎年毎年進化していきながら、じょっぱり隊として活動してきたと思う。じょっぱり隊のことについて実際に施設の方から知ることにつながってよかった。



- じょっぱり隊が今年で21年目だということに驚きました。歴史ある活動に自分が参加できることをうれしく思います。10班それぞれの活動や、2日、3日、4日の活動を写真で見ることができ、具体的なイメージがわきました。ボランティアでは、初対面の人と接する機会が多く、第一印象は本当に大切だと思いました。作業中にしゃがみこんでいたり、笑顔を忘れないということに注意するだけでなく、自ら仕事を探したり、自分が発する言葉一つ一つに気を遣い、相手にいやな思いをさせないようにボランティアに参加したいと考えています。
- ケア付青森ねぶたじょっぱり隊は、平成8年から始まっている歴史ある活動だとは知らなかった。高齢者や障害者のノーマライゼーションを考慮し、自己を主張し続けるための取り組みだということを知り、参加したいと強く思った。各ボランティア班で活動内容は異なるが、協働という言葉を念頭に置き、当日、臨みたい。参加者同士は初対面の方が多いと思うので、私が話すきっかけを作ってあげたい。



## 活動を振り返る会参加後の感想抜粋

	良かった点	反省点・問題点
<b>運行班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で仕事をみつけることができた。</li> <li>時間を見つければ、参加者と交流できた。</li> <li>大学のPRになった。</li> <li>急な役割変更にも対応できた（設営→運行、ハネト→給水）</li> <li>食料班のご飯が美味しかった（出陣する時のエネルギーになった）。</li> <li>自分の担当以外の人にも積極的に話しかけていた。</li> <li>家族の方へのケアもできていた（食事など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>喋ることができない参加者との接し方が分からなかった。</li> <li>本番、指示が伝わらない。歩いているだけや掛け声だけの時があった。</li> <li>ごはんを食べるとき、家族は介助していて学生は何をしていいかわからなかった。</li> <li>給水車のゴミ袋が車輪に絡まってしまった。</li> <li>積極的な交流が足りなかった。</li> <li>参加者さんとはねた後のスケジュールがわからず、どうしていいかわからなかった。</li> <li>次、何時に何があるか、どこにいくかがわからず、ただただ待っていた。</li> <li>指示を待っていた、受け身。</li> </ul>
<b>備品班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度障がい者の参加者たちの健康チェックの時に、間近でそれをみることができた（ストレッチ方法やおむつ交換、口腔ケアなど）</li> <li>裏方としてボランティア全体を支えているという実感がもてる。</li> <li>自分たちから進んで仕事ができる。</li> <li>裏方の重要性を実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>終わった後、参加者とそのご家族の方々の着替えなどの荷物を渡し忘れたことがあった。</li> <li>想像しているより動きが多く、疲れる。</li> <li>参加者への声かけが足りなかった。（服などの荷物を預かるときなど）</li> </ul>
<b>食料班</b>	<p>食料を配る時、参加している人（参加者さん、じょっぱり隊員）の楽しそうな顔をたくさん見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食時に参加者さんがせっかくお話をされているときに、食料班はお昼タイムだったので、しっかりと落ちついて話を聞くことができなかった。</li> <li>運行班と比べると参加者さんとの距離が遠い。</li> </ul>
<b>設営班</b>	<p>仕事の幅が広がったが、指示されたことを臨機応変に対応できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示がないとき、自分たちから動くことができなかった。</li> <li>参加者さんとのふれあいがほほえない。</li> </ul>
<b>全体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業のようなスケールの大きなボランティアをして勉強になった。</li> <li>参加者の皆さんやその家族の人と色々な話が出来て、勉強になった。</li> <li>昼食時、参加者のみなさんのインタビューで様々な情報を得ることができた。</li> <li>学生以外のボランティアの方々との交流ができた。</li> <li>指示通りに、臨機応変に対応できた。</li> <li>裏方の重要性を知れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員がもう少しスケジュールを把握していないと、何をやるべきかわからない。</li> <li>班で分けられているから、運行班以外の方は参加者の皆さんとふれあえない。</li> <li>担当によって、ごはんを食べる時間の無い人がいた。</li> <li>運行班のプラカード係は、担当する参加者がおらず、交流が持てなかった。</li> <li>受け身、指示待ちだった。</li> <li>交流会が短かった。</li> <li>何を話せばいいかわからない。</li> <li>交流会の席、参加者さんがわからない（マッチングしていない）。</li> <li>各班の連携がとれていない。</li> <li>最後の参加者とのお別れの挨拶をできるように配慮してほしい。</li> <li>運行時、指示の仕方を工夫してほしい。</li> </ul>

### 問題点についての今後の対応策の提言

- 指示の仕方は指示をプラカードで出すなど、みんなにわかるようにする。
- ハネトの中でリーダーを決めて、指示が無い時にその人が指示できるようにする。
- 運行班のプラカード係を交替制にする。
- 着替えの後に、参加者の人と交流を深める機会をつくる。
- 待ち時間にこれからの流れを随時確認。
- 積極的に交流する、動く（顔合わせ）。
- 青い森公園に着いてからの動きを把握しておく。
- 雨天時のときの対応を前日に確認しておく
- 元気良く挨拶する、わからないところは質問する。

## 全体スケジュール

## 平成28年度ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊

### **事前説明会**

日時：8月2日（火）10：30～12：00  
場所：A棟3階 A305教室、フジカルフグザミネーションルーム（A305 教室隣り）  
内容：Tシャツ、シール配布

#### 班の紹介

活動の最終確認  
（運行班はフジカルフームで着付練習、隊列練習とリネトの振り付け練習）

- ・学生ボランティアは全員参加してください。
- ・事前にこのお話をよく読み、質問などはこの説明会の際にしてください。
- ・フライマリーケアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。

### **ねぶた出陣**

8月3日（水） …… 2 ページへ  
（場合によっては8月2日午後にボランティアをお願いすることがあるかもしれません。）

### **活動を振り返る会**

日時：8月4日（木）14：00～17：00 …… 15 ページへ  
場所：B棟1階B110教室

## 青森県立保健大学

## 学生ボランティアのしおり

### 目次

全体スケジュール	1 ページ
ねぶた出陣（8月3日）のスケジュールと内容	2 ページ
ボランティア留意事項	5 ページ
ボランティアの心得【共通】	6 ページ
ボランティアの心得【備品班】	7 ページ
ボランティアの心得【運行班】	8 ページ
ボランティアの心得【設営班】	10 ページ
ボランティアの心得【食料班】	11 ページ
保健大学オリジナルハルハネト振付	12 ページ
緊急時等の連絡先	14 ページ
活動を振り返る会の案内	15 ページ

	リーダー	代表学生 (学生リーダー)
食料班	久慈 武司	佐々木 麻希
設営班	山口 真弥	松浦 彩華、坂本 英巨、吉川 暉
備品班	山口 直美	横田 いずみ
運行班	櫻田 優	森川 安希子、坂井 美香、土岐 瑞生、 山内 唯、山田 優美、清水目 和

#### 4. 結団式等

- ・次の時間帯は全員参加です。ただし、各班のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。
- 10:45 祈願祭 (4F 県民ホール)
- 11:00 結団式 (同)

#### 5. 休憩 (食事)

- ・食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ず代表学生を通じてリーダーに確認をとってください。
- ・お昼は、4階大中研修室で食事が提供されます。各自受け取って、各班のリーダーの指示に従い、交流会会場 (4階大中研修室) 以外の場所で食べてください。プライマリーケア担当者、交流会場で参加者と一緒に昼食をとります。参加者さんと同じものを食べます。料理を取り分けるなど、参加者への配慮を忘れないこと。

#### 6. 青い森公園へ移動

- ・県民福祉プラザから青い森公園に移動する際は、準備のきた人から順次乗車します。各班リーダー、車両班の指示に従って、スムーズに乗車してください。
- ・県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物が無いようにしてください。

#### 7. 解散

- ・各班リーダーの指示により解散したら、各班の担当教員のもとに集合してください。各班が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。
- ・モータービリン GO、つゆき号、大型バスで大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき各班の担当教員に申し出てください。
- ・バスは青い森公園東側 (日本赤十字社青森県支部付近) に停車しています。各班の担当教員の確認を受けた人から順に乗車してください。
- バス出発時刻 22:00、22:10
- ※ 各自の乗車時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照 (直前説明会で配布)
- ・大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

## ねぶた出陣のスケジュールと内容

日時：8月3日 (水)

### 1. 集合時間

- ・大型バス、モータービリン GO、つゆき号で移動します。
- 次の時間帯おりに集合してください。
- 集合場所：管理棟正面
- バス出発時刻 8:30

- ※ 各自の集合時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照 (直前説明会で配布)
- ・大型バス、モータービリン GO、つゆき号を使用しない場合は、7月28日 (木) までに各班の担当教員または、事務局左様に連絡してください。
- ・当日になって急ぎも使用しなくなった場合は、出発の時刻前までに「緊急時等の連絡先」(14ページ) へ連絡してください。
- ・定刻で出発しますので、遅れることはないようにしてください。

### 2. 福祉プラザに到着したら

- ・1階ロビーで待機してください。別業務の方や来訪者がいるので、私語は控えるようにしてください。
- ・担当教員が出欠確認をします。
- 担当教員 食料班 乗鞍先生 長門先生、マイケル・スミス先生
- 設営班 児玉先生
- 備品班
- 運行班 (全体) 木村先生、戸沼先生、岡田先生
- ・全員そろったら、担当教員と一緒に各班の集合場所へ向かいます。

### 3. 各班での活動

- ・各自、各心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各班のリーダーに従ってください。
- ・各班への伝達事項は、県民福祉プラザ4階大ホール前の受付に設置するホワイトボードを随時確認してください。
- ・各班の代表学生 (学生リーダー) は、各班のリーダーと学生ボランティアの間で連絡のやり取りをしてください。学生ボランティアは、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、代表学生に伝え、代表学生は、まとめてリーダーに確認してください。



## ボランティア留意事項

### ☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。  
「ようこそ（青森へ）、ようこそ（じょっ  
ぱり隊へ）」おもてなしの心をこめて

### ☆ 協働の合言葉

上手くできたら、「じょっぱりだから  
ね」、失敗した時にこそ、「じょっぱりだ  
ものね」、と声に出してみてください。

### ◆ 準備を重ねてきましたが、予定変更や、ハプニングは、このようなイベントにつきものです。

また情報が伝わらず、思わぬ活動が出来ないで立ち止まっている方もいるかもしれませんが、真剣であればあるほど、「怒り心頭に発する」場合もあるでしょう。でも、せつがくの出会いを大切に、例え怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブル起きたときの合言葉、「じょっぱりだからね」をご紹介します。声に出して言いながら、ストレスもわかまらむさむさりと流して、前進しなさい。有終完美（終わればすべよし）を目指し、不具合があっても、「じょっぱりだからね」で、お願いします。

最高のおもてなし、それは、  
ボランティアの笑顔、皆さんの笑顔、なのです

### ハネトの皆様へ

運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネト＞3人一組で行動します。ハネトの役割は次の通りです。	
1	参加者、付添者（家族）の中には、車外の方もいます。場所や方言等に不便を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。
2	付添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しっかりと交差しガードしましょう。
3	ねぶたの衣装を身につけ、「じょっぱり隊」オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。
4	参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみとしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を満喫していただきましょう。

### <服装・持ち物>

#### ● 服装

- ・上は、大学Tシャツを着用してください（現地で着替えない）。下はズボンを着用してください。
- ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
- ・雨天の場合は、雨ガッパなどを各自で用意する。

#### ● 持ち物

- ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行中は浴衣に着替えるので、ボ  
ー子などを持参して各自で貴重品管理をしてください。

### <その他>

#### ● 体調管理

- ・体調管理は自己責任となります。当日は万全の態勢でボランティアに臨めるよう、体調を整え  
ておきましょう。
- ・ボランティア前日は睡眠を十分にとり、朝食を食べてください。
- ・当日、体調が悪くなったら、早めに担当教員に申し出てください。

#### ● 緊急連絡

- ・体調不良以外にも、困ったことや、わからないことがあれば、班のリーダーや担当教員に確認、  
報告等してください。

#### ● ねぶた終了後、参加者とその家族への対応

- ・場合によって、参加者や家族の方からお手紙が届く場合があります。その際にはきちんとお返事  
を出すようにしましょう。

1. ボランティア自身の健康管理が大切です。自己管理ですが、早め早めに、対処して欲しいものです。
  - ・体調不良時は早めに自分で担当教員に申し出る
  - ・無理をせずボランティアを断念する勇気も必要です
2. ケア付よび的態では、多くの関係者の期待を背負いながら活動しています。多くの支援者の期待と、そして信用を損ねない活動姿勢が重要です。夜遅くの活動もあり、祭りという非日常の雰囲気についっい飲み込まれてしまいがちですが、しっかり気持ちを引き締め、お願いいたします。
  - ・注意が必要は行動を自分で考えてみよう
3. 総勢 250 人で、この事業を行います。
  - ・時間の制約もあり、班ごとの活動はしますが、総合力が問われます。気持ちよく仕上げるコツは、「互いに相談、きちんと連絡、しっかりと報告」です。さらに、ボランティアの真意は、主体性、自主性です。だから、「～の仕事が終わりました。次は何ですか」北声をかけてください。これは基本のキです。心がけないと、できない事もあります。

#### 相談室について

いつでも、どのようなときでも、疑問、不安に感じたら、担当ボランティアのリーダーや教員に聞いてください。ボランティア活動中の体調不良は、我慢せずに班の担当教員に申し出て下さい。  
※大学バス出発前に、体調不良等で参加できなくなった場合は、速やかに「緊急時等の連絡先」に連絡してください。

#### ハネトの皆様へ

運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネト＞3人一組で行動します。ハネトの役割は次の通りです。	
1	参加者、付添者（家族）の中には、車外の方もいます。場所や方言等に不便を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。
2	付添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しっかりと交差しガードしましょう。
3	ねぶたの衣装を身につけ、「じょっぱり隊」オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。
4	参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみとしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を満喫していただきましょう。



## 備品班 心得！

### 集合場所 4階小研修室

備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや着付けができるように声をかけあってください。	
その1	荷物は最小限度にして下さい。持ちながらの作業はできません。
その2	集合場所ではリーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。
その3	それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めに教員への報告をお願いします。
その4	行動するときは、どこに行くのか、伝達し、勝手な行動は控えてください。所在が確認できないときは、あなただを探すこととなります。
その5	わからないときは、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに連絡がつかない時は、教員に相談してください。
その6	13時からの着付けの際、着物の不備や質問等わからない時は、その場を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーに連絡してください。
その7	「荷物がなくなった」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いに来た方の名前を聞き、その場でリーダーに連絡ください。リーダーがその場に行ったら対応します。

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 出陣前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合って騒然となることもあります。落ちついて相手の名前を確認して確実に受け渡ししましょう。
- ◆ ねぶた終了後、運行班のみなさんが浴衣をランドリーバッグに入れますが、携帯電話や貴重品の所持品を入れられないよう呼びかけるとともに確認しましょう。
- ◆ 他ボランティアから荷物の移動を指示されることもあります。不明な場合は場所を確認してから指示を受けましょう。

## 保健大ボランティア 共通心得！

その1	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トランプがあっても … 「じょっぱりだものね」 良いことがあれば … 「じょっぱりだからね」
その2	8月3日の集合場所になっている県民福祉プラザには、シャトルバス、若しくは公共機関を利用し、自転車、自動車は避けてください。駐車（輪）のお世話は出来ません（解散場所は県民福祉プラザではなく、青い森公園です。）
その3	一人で解決しようと思わず、迷ったらじょっぱり隊のTシャツを着ているボランティアスタッフに相談しましょう。変更事項が常にあります。何時の時点の指示が確認しましょう。
その4	運行班になっている方は、ソックス・スニーカーをはいてきてください（本来なら草履ですが、安全と動きやすさを考慮して）
その5	携帯電話が雨に濡れて壊れないように、ジップロックなどの入れ物に入れるなど工夫しましょう。
その6	貴重品の管理は各自で！大金を持ってこない。食事や飲み物は会場です。
その7	所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってきてない。また所持品は記名をすること（備替えがあるので、身に纏うものは、ウエストポーチなどを活用のこと）
その8	体調不良の際には、教員に申し出て下さい。
その9	ボランティア活動時は、ボランティアであることを心がけましょう。活動時の携帯電話の使用は控えてください。

\* 昼食は、4階大中研修室で提供された食事を持参し、各班のリーダーの指示に従って、交流会会場（4階大中研修室）以外の場所です。プライマリーケア担当者は、交流会場で参加者さんと一緒に昼食をとります。

## 運行班 心得！

### 集合場所 4 階県民ホール

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。	
その 1	怪我等には十分注意を。もし怪我・体調不良・事故等の場合には教員へ連絡をお願いいたします。
その 2	所持品等については自己管理をお願いします。
その 3	車でお越しの方は県庁第 2 駐車場の駐車をお願いします。(学生は駐車しない)
その 4	8 月 3 日は解散時刻を 22 時に予定しています。
その 5	天候等の状況によってスケジュール等が変更になる場合があります。その際には随時連絡します。

\* 退陣後、速やかに着替えをし、バス発車時刻までにバス待機場所に集合してください。

(着替え場所) ハネト … 青い森公園内のテント

ハネト以外 … 県庁北棟 2 階

※ 退陣が 2 1 : 3 0 以降になった場合は、全員テント。

\* 衣表については伝統的な着付けを行います。着付け班の指示に従って着用してください。(お座の丈が長いことは了解してください)

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

#### ハネトグループ

- ◆ 着替えは 1 3 時頃を予定しています。その前に昼食を終えるようにしましょう。
- ◆ 服装は、履き慣れた運動靴とタグトップの着用 (着替えが楽にでき、汗を吸い取ってくれます)をお勧めします。
- ◆ 運行班だけが浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることになるので、大きい荷物などを持ち込まないようにしてください。
- ◆ 着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います (着替え場所：女子 4 階県民ホールステージ、男子ステージ下客席)。着付け終了後、着付け班ボランティアに最終確認していただきます。
- ◆ 1 3 : 4 0 までには着替えを終了するよう、ときばきと動きましょう。
- ◆ 浴衣に着替えたら、モーリーのラミネートシートを右胸に貼ってください

※ プライマリーケアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイミングを見て着替えに行ってください。近くのボランティアに必ず声掛けしてから離れましょう。

- ◆ 花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
  - ◆ 振り付けは元氣よく笑顔でがんばりましょう。また、隊列は「常に美しく尻心掛けましょう。
  - ◆ 運行中は緊急の場合を除き隊列を離れることができません。体調を整えて臨みましょう。また水分をこまめにとりましょう。
  - ◆ 運行中やその前後も参加者の方を一人にしないよう十分注意しましょう。持ち場を離れる時は付添いさん等に一声かけてください。
  - ◆ 退陣後は、すぐに着替えに入るのではなく、参加者が一人にならないことを参加者と付添い確認してから着替え場所に移動しましょう。そのまま入浴場所に移動する参加者もいるので、お別れの挨拶のタイミングを迷さないように動きましょう。
  - ◆ 退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
  - ◆ 青い森公園内に設置したテントで、自分の荷物を受け取って着替えをしてください (状況に応じて変更になる場合があります。指示のもと備品班に行動してください)。
- ※ プライマリーケアを担当する学生の着替えが優先です。通って参加者が退陣してくるので、急いで着替えて青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。
- ◆ 脱いだ衣表は、テント脇に待機している備品班に返却しますが、その際私物が混じっていないか確認してください。

#### のぼりグループ

- ◆ 着替えの時間や場所はハネトグループと同様ですが、衣表は、はつととなります。
- ◆ 運行中、緊急事態やトイレ移動時は、のぼりを持って隊列から抜けます。
- ◆ のぼりはお腹につけて固定し、4 5 度の角度で持ちます。常に横を意識し、そろえて進むように心がけます。
- ◆ 運行中は、隊列の乱れを修正します。また、カフスハネト等の侵入を防ぎます。
- ◆ 県庁北棟 2 階で、自分の荷物を受け取って着替えをしてください。退陣時間が 2 1 : 3 0 を過ぎた場合は、青い森公園内に設置したテントで着替えます。

## 食料班 心得！

### 集合場所 5階調理実習室

その1	必ず手洗いをして、作業に取り掛かりましょう。 むやみに髪など触らず、手指を清潔に保ちましょう。 また、怪我には留意しましょう。
その2	調理道具は使ったら、片付ける。作業台の上は、整理整頓をしながら調理しましょう。 布巾を常備し、汚れば小さいうしろに掃除しましょう。
その3	貴重品、所持品の管理は自己責任です。 大事なものは持ってこない。また、所持品には記名をする。(身につけるものは、ウエス トポーチなどを活用のこと)
その4	会館駐車場の使用は禁止！！使用できる駐車場は県民福祉プラザが第2駐車場のみ です。駐車場のお世話はできませんので、自転車や公共機関を活用しましょう(会館 事務局への問い合わせ 厳禁) (学生は駐車しない)
その5	食中毒感染予防のため、体調不良の際は、必ず教員に申し出て下さい。
その6	食材や道具を台車に積みすぎない。荷崩れの恐れがあるので無理に運ばない！！ 何かあったら一人で解決しようと思わず、ボランティアスタッフに相談すること。
その7	食事時には、おちでなしの心で、参加者・ボランティアさんに積極的に声をかけましょう。
その8	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トラルプルがあっても「じよはの嫁だね」 良いことがあれば、「じよはの嫁だからね」

### ★本学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆食事を提供する際には衛生的であることに気を付けなければなりません。
- ◆衛生的な調理や盛り付けをするために、以下のこと気を付けましょう。
  - ① 爪は短く切り、マニキュアはしてこない。
  - ② 指輪やブレスレットなどの手指へのアクセサリーはつけてこない。
  - ③ 三角巾、エプロンを持参する。

## 設営班 心得！

### 集合場所： 4階大中研修室

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。

その1	怪我等には十分注意を。もし、怪我・体調不良・事故等の場合には、教員へ連絡をお願いいたします。
その2	所持品等については自己管理をお願いします。
その3	8月2日・3日ともに車でのお越しの方は県プラ第2駐車場への駐車をお願いします。 (学生は駐車しない)
その4	8月3日解散予定時刻が22時頃を予定しております。
その5	天候等の状況によってスケジュールの変更があるため、変更があった場合には随時、連絡を行いますので宜しくお願いたします。
その6	8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大中研修室の仕切は管理室職員が行います。

### ★本学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆物品の移動・運搬やテント設営などの力仕事が多いため、体調を整えて臨んでください。
- ◆服装は動きやすいもので構いませんが、膝をつく姿勢をとることも多いため、膝を保護できる服装が望ましいです。また、軍手を準備しておくとう便利です。



by 伊藤 昌  
おたけのり

ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ

by 伊藤 昌  
おたけのり

ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ

伊藤 昌 手振り Ver.2

ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ

伊藤 昌 手振り Ver.2

ラッパ  
ラッパ  
ラッパ  
ラッパ



## 緊急時等の連絡先

ケア付きねぶたでの緊急時以外は使用しないでください。当日のみの連絡可能です。

8月3日（水）7：00～22：30 以外は通話できません。

ボランティア活動中の体調不良等は、原則として各期の担当教員に申し出てください

事務局佐藤
-------

## ケア付きねぶた“じよっぱり隊”の活動を振り返る会

この会は、ケア付きねぶたが終わった後に、ボランティアの学生の皆さんが、それぞれどのような活動をして、それがどのような形で参加された方に提供されていたか、そして、参加者の方に「どう喜んでいただいた」のかを振り返る会です。

“じよっぱり隊”参加者の皆さんはずつと前から、この日を楽しみにしてきました。その方の期待に応えようと、たくさんの方が何ヶ月もの月日をかけて準備をしてみました。ボランティアとして参加された学生の皆さんは、全体がみえない状況の中、参加者の皆さんに喜んでもらえるように、自分にできることを一生懸命考えてやりぬいたと思います。

そこで、皆さんの体験や感動したことを学生全員で共有することで、新たな感動と、ボランティアについての考え方に広がりが出てくると 생각합니다。

また、皆さんの声を“じよっぱり隊”の企画・運営に活かしていきたいと考えて、次に参加する方やご家族の方、ボランティアの方の活動に貢献できると 생각합니다。

振り返る会は、ケア付きねぶたの翌日に開催します。

興奮さめやらぬ皆さんとお話ができることを楽しみにしています。

日時：2016年8月4日（木） 14：00～17：00

会場：B110 教室

プログラム（参加人数により、時間を変更することがあります）

14：00～14：10 オリエンテーションとグループ分け

\*グループは、当日おしらせします。

14：10～15：30 グループ内の話し合い

（活動内容、参加者の反応、困ったこと、改善のための提案など）

15：30～16：50 各グループの発表

16：50～17：00 まとめ

報告会班（通称：振り返り隊） 理学療法学科 長門  
社会福祉学科 岡田

## 参加者一覧

運行班 (付き添いグループ)		
1	来賓隊列	上泉 和子
2	来賓隊列	藤本 幸男
3	付き添い	坂野 奈央
4	付き添い	山田 優美 (学生リターナ)
5	付き添い	福島 風子
6	付き添い	飯田 里菜
7	付き添い	土岐 瑞生 (学生リターナ)
8	付き添い	山内 唯 (学生リターナ)
9	付き添い	森川 安希子 (学生リターナ)
10	付き添い	篠原 理歩
11	付き添い	赤井 はるか
12	付き添い	田中 美聡
13	付き添い	坂井 美香 (学生リターナ)
14	付き添い	濱田 菜那
15	付き添い	野牛 友美
16	ハネト	常岡 恵里奈
17	ハネト	田名部 涼夏
18	ハネト	作山 華奈子
19	ハネト	菅原 真美
20	ハネト	山田 遥
21	ハネト	有谷 望々
22	ハネト	清水目 和 (学生リターナ)
23	ハネト	杉村 琴胡
24	ハネト	神永 彩那
25	ハネト	山本 春香
26	ハネト	船木 朱
27	ハネト	奥山 可萌
28	ハネト	川村 優衣
29	ハネト	後藤 優和
30	ハネト	久光 夕貴
31	ハネト	佐々木 雪乃
32	ハネト	種元 彩乃
33	ハネト	今 優菜
34	ハネト	藤原 江里
35	ハネト	村井 つぐみ
36	ハネト	西村 奈津美
37	ハネト	菊池 穂乃花
38	ハネト	山中 侑希奈
39	ハネト	中野渡 千峰
40	ハネト	原子 和泉
41	隊列	鈴木 孝夫
42	隊列	出雲 祐二
43	隊列	藤田 修三
44	隊列	戸沼 由紀
45	公園待機	福岡 裕美子
46	公園待機	佐藤 知恵子
のぼり・大うちわ・拡声器・給水グループ		
47	のぼり	高谷 憲
48	のぼり	岡田 敦史
49	のぼり	千葉 武揚
50	のぼり	杉山 克己
51	のぼり	深堀 満
52	のぼり	川嶋 尚孝
53	のぼり	笠原 達矢
54	のぼり	新岡 大和
55	のぼり	寺田 泰二
56	プラカード	樋川 実香
57	プラカード	小笠原 美里
58	給水車	木村 恵美子
59	給水車	谷川 涼子
60	給水車	石切 麻希子
61	給水車	外崎 絢佳
62	医療用リヤカー	奈良崎 恵
63	医療用リヤカー	山口 満里奈
64	前ねぶた	長畑 まり杏
65	前ねぶた	鳴海 怜佳
医療班		
66	隊列	大西 基喜
67	隊列	渡部 一郎
68	隊列	角濱 春美

備品班	
69	桑原 芽依
70	小山 優美
71	今 葉津美
72	西川 夏未
73	張磨 花菜
74	山本 祐未
75	木村 有希
76	横田 いずみ (学生リターナ)
77	風穴 剣汰 (保健大学実習生)
78	児玉 寛子
食料班	
79	加納 まりあ
80	傳法 愛佳
81	滝沢 有加
82	長内 萌美
83	菊池 由佳
84	佐々木 麻希 (学生リターナ)
85	菅井 日南子
86	高橋 春花
87	星 英里
88	三浦 小菜実
89	乗鞍 敏夫
90	秦 希久子
91	米谷 瑞紀
設営班	
92	齊藤 和泉
93	橋端 理子
94	山崎 祐美
95	五十嵐 大地
96	小林 凌太
97	坂本 英巨 (学生リターナ)
98	吉川 遥 (副学生リターナ)
99	水原 笙
100	長門 五城
101	マイケル・スミス
102	木村 文佳
103	岩淵 恒子
104	八木橋 まなみ
105	永澤 芽衣
106	小林 美奈
107	樋口 彩子
その他	
	吹奏楽サークル
	書道サークル

教職員

## ケア付きねぶた推進委員会の活動概要

- 第1回：5月19日（木） 9時～10時15分
- 第2回：6月10日（金） 9時～10時10分
- 第3回：7月12日（火） 9時～10時05分
- 第4回：8月 2日（火） 13時25分～13時40分
- 第5回：9月13日（火） 16時～16時45分

- ① ボランティア募集  
5月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。
- ② サークル発表の調整  
本学の文化系サークルに声掛けして、発表してもらうサークルの調整を行いました。
- ③ ボランティア養成講座の実施  
6月13日（月）に第1回ボランティア養成講座、7月16日（土）に第2回ボランティア養成講座を開催しました。
- ④ オリエンテーションの実施  
7月16日（土）10時45分から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。
- ⑤ バスの手配  
ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバスの他、大型バスを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。
- ⑥ しおりの作成  
学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。
- ⑦ 事前説明会の実施  
8月2日（火）10時30分からボランティア参加学生を対象、13時から教職員を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。
- ⑧ 推進委員の参加  
推進委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に推進委員を配置することで、万一のときの連絡体制がとれるようにしました。
- ⑨ 学生の識別  
活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。学生リーダーや本学役職者のシールを色別に分けました。

⑩ 医師・看護師の派遣

実行委員会からの要請により、医師2名、看護師1名を派遣しました。

⑪ プライマリー・ケア担当学生

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑫ カメラマン

本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑬ 活動を振り返る会

8月4日（木）に、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。





平成28年度  
ケア付きねぶた推進委員会

顧問	学長 上泉 和子
委員長	地域連携推進・国際センター長 出雲 祐二
学生部	学生部長 杉山 克己
看護学科	教授 木村 恵美子 助教 戸沼 由紀
理学療法学科	助教 長門 五城 助教 マイケル・スミス
社会福祉学科	准教授 児玉 寛子 講師 岡田 敦史
栄養学科	講師 乗鞍 敏夫 講師 小笠原 メリッサ
事務局	
教務学生課	課長 深堀 満
地域連携推進課	総括担当 川嶋 尚孝 主査 佐藤 知恵子

発行：ケア付きねぶた推進委員会  
平成28年10月